

【15:00開会】

事務局 【挨拶】

委員長 【挨拶】

事務局 【資料説明】

では、本日の選定委員会についての説明をさせていただきます。

本日は、小学校の教科書採択にあたり、調査員から調査報告を受けます。より専門的な調査研究を行うため、5月16日から小学校教員の調査員により調査研究活動を実施し、本日お手元にございます報告書を提出いただいております。

選定委員の皆様は、この報告書ならびに本日の調査員の報告をもとに、内容をご検討いただき、7月3日（月）の第3回選定委員会にて協議いただきます。事務局担当指導主事の方で作成します答申書の原案、所謂具申書になりますが、それと合わせて協議いただきます。その協議結果等をふまえ、答申書を加筆修正の後、7月7日（金）第4回選定委員会にて確認、修正の後、7月7日当日に教育委員会へ答申する運びとなります。

本日は、道徳から報告を受けますが、なにぶん限られた時間での報告でもあり、答申までの間に、各委員様が教科書センター及び拠点校である小学校、山田駅前図書館等の見本本などを活用いただくなど、十分に検討いただきたく思っております。

なお、本日は、報告及び質疑応答を含め30分の時間をとっております。始め20分程度調査員からの報告があり、残り10分程度が質疑応答となっております。ぜひとも様々な立場、視点からご質問いただき、協議の材料にさせていただけたらと考えます。

尚、調査報告書の作成にあたっては、「プラス評価で表記し、積極的に評価できる部分が多くある教科書の報告書の記述内容は、量的に膨らむこととなります」と調査員に伝えております。

委員長 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

各委員 なし

委員長 それでは、調査員からの報告を15時30分から行いたいと思います。それまでの間、見ていただいて結構ですので、準備をしていただければと思います。

【 休 憩 】

委員長 時間となりましたので、調査員の方3名に来ていただいております。ただ今から、調査員の方々からご報告をいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

調査員 A ただ今から、平成30年度使用教科用図書（小学校用）種目「特別の教科 道徳」の調査結果について（別紙）調査報告書を添えてご報告いたします。

項目①目標・内容の取扱いについてです。全発行者ともに児童が物事を多面的・

多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるように取り扱われています。その中でも特徴的なものは、「学研教育みらい」「日本文教出版」「学校図書」です。「学研教育みらい」ですが、他の教科書は、教材を読む前に児童に問題意識や学習の課題をもつことができるように教材のタイトルとともに主題が明示されていますが、「学研教育みらい」は、あえて本文より前に教材の主題を示さないことで、児童自身から発する問題意識を第一に考えることができるように工夫されています。これは、特定の価値観の押し付けを避け、児童自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を養うことにつながると強く感じました。また、4種類の「学び方のページ」が設けられており、児童が物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようになっています。「日本文教出版」ですが、教材の前に短く主題が明示されていますが、別冊の『道徳ノート』には、自分の考えだけでなく友達の考えを全時間書き込む欄があり多面的・多角的な考え方にきづくことができるようになっています。「学校図書」ですが、意見を交換し合ったり、書いたり、実際に演技してみるなど様々な活動が設定されているので、一人ひとりが考えたことや発見した問題について多面的・多角的な考えがもてるようになっています。

項目②人権の取扱いについては全発行者ともに全学年で「生命の尊さ」について重点が置かれており、人権・いじめ・情報モラルについて全学年で取り扱われています。その中でも特徴的なものは、「東京書籍」「光村図書出版」「学研教育みらい」です。「東京書籍」ですが、とびらのページ、間接的教材、直接的教材が連なって用意され、複数時間にわたり、いじめのことを深くじっくり考えることができるよう「いじめのない世界へ」というユニットが全学年に掲載されています。「光村図書出版」ですが、巻頭に「みんな 生きてる みんなで 生きてる」の詩が掲載され統一して道徳学習の目標が示されています。「いじめ問題」に結びつく教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されており、いじめをしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるように工夫されています。「学研教育みらい」ですが、命の尊さに関する教材が、直接的アプローチと間接的アプローチを用いて、各学年3点ずつ計6点掲載されています。連続した3教材で命の大切さを学習し、加えて、いじめ防止につながる教材が散りばめられています。一年間を通して繰り返し、命について考えることができるように工夫されています。

項目③内容の程度については全発行者ともに児童が道徳的実践を主体的に行う意欲と態度が育めるように取り扱われています。その中でも特徴的なものは、「教育出版」「光文書院」「廣済堂あかつき」です。「教育出版」ですが、全学年にわたってモラルスキルトレーニングのページが掲載され、道徳的諸価値を実体験を通して理解し、行動化が図れるようになっています。「光文書院」ですが、「発展」では、学びを生活の中に広げるための話し合い活動を設定しています。授業で理解した道徳的価値を大切に作る心情を育てるとともに、実生活に生かそうとする意欲を引き出す工夫がされています。「廣済堂あかつき」ですが、問題解決的な学習については、解決を目指す問題が道徳的であること、体験的な学習については、活動そのものが目的化しないよう配慮された問いになっています。

項目④組織・配列については全発行者ともに学習指導要領の4つの領域の内容がバランスよく配置されています。その中でも特徴的なものは、「教育出版」「日本文教出版」「廣済堂あかつき」です。「教育出版」ですが、季節感やタイミング等にも配慮した効果的な指導が展開できるよう工夫されています。「日本文教出版」

ですが、本冊と別冊との2冊で構成されています。別冊『道徳ノート』には自分の成長の記録、友だちの考え、保護者記入欄があり、家庭と学校間の連携が図ることができるようになっていました。「廣濟堂あかつき」ですが、本冊と別冊との2冊で構成されています。別冊『道徳ノート』には 振り返り、心の成長、課題目標の書き込み欄活用により2冊を併用することで答えが一つではない道徳的課題に向き合えるよう工夫されています。

項目⑤創意工夫については、全発行者ともに児童自らが振り返って成長を実感し、これからの課題や目標をみつけられることができ、深く考えるように取り扱われています。その中でも特徴的なものは、「学校図書」「光村図書出版」「学研教育みらい」です。「学校図書」では「よみもの」と「活動」に教科書を分けることで考えの押し付けにならず、自分の考えに向き合った後、活動の教科書を活用することで考えの整理、振り返り、活動のヒントを考えられるように工夫されています。「光村図書出版」では児童が自己評価の記録を残す「学びの記録」が各学年4か所に位置づけられています。「学研教育みらい」では報告書には記載していませんが、A4判で紙面にゆとりがあり、文字、絵も写真も大きく印象的で児童の興味関心をひくものとなっています。他者では、高学年になると成長に合わせて絵や文字が小さくなっていますが、「学研教育みらい」では、5・6年生でも絵や文字が大きく、話の内容が全ての児童に分かりやすく把握できるように工夫されています。

項目⑥ 補充的な学習・発展的な学習については、全発行者ともに学んだことを深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるように取り扱われています。その中でも特徴的なものは、「東京書籍」「日本文教出版」「光文書院」です。「東京書籍」では、第三学年以上では、学習したことを日常生活で実践し、豊かな心を育むことができる「つながる・ひろがる」のページが掲載されています。「日本文教出版」では、道徳的価値について考えを広げ、深めることができる「心のベンチ」のページが掲載されています。「光文書院」では、学んだことを日常の生活のどの場面に広げていくかを考え、実践意欲へとつなげることができる「広げる」のページが掲載されています。以上、調査結果についてのご報告を終わらせていただきます。

委員長 報告ありがとうございました。それでは質疑の方にうつりたいのですがよろしいでしょうか。各委員から何かご質問はございませんでしょうか。

E 委員 はい。今回大きな違いは、2冊書き込み用と言いますか、子ども自らが学習するようなものを付けている教科書と一つの教科書の中で振り返りのページということでまとめて欄が設けられているということで、子どもにとってどちらが使いやすいのか。教員にとってどちらが評価しやすいのかなど、1冊だからいいとか、分かっているからいいとか、調査員としての見解を聞かせてください。

調査員 B ノートを別冊である発行者と1冊にまとめている発行者がございしますが、良い点としましては、自分自身が振り返りやすいですし、成長の記録として使える。子どもの心の変容を見取ることがしやすくなるので、もちろん評価に活用して、先生が子どもに返す、そして次の指導に生かすところはいいかと思えます。ノートのところに各発行者、発問が書いてあるので、授業の流れが分かりやすいところは良い点ですが、授業の流れが固定化されてしまう点はあると思えます。

委員長 ちなみに、別冊になっているものと、そのまま書き込み式になっている発行者を教えてください。

調査員 B 学校図書は「読み物」と「活動」と明確に別冊に分かれています。廣済堂あかつきも別冊になっているがノートで特徴かと思うのは振り返りの欄が自由度の高いものになっています。「今日の授業で感じたことや考えたことを書きましょう」というふうに全時間同じ聞き方をしているノートを採用しています。日本文教出版も道徳ノートを採用しているのですが、廣済堂あかつきとの違うのは友達の意見を書く欄が必ず全時間入っている点で、それぞれ違いが出てきていると思います。

A 委員 今回の事に関わって、同じ2冊でもまったく別の2冊になっているのと、挟み込むタイプの会社もあるのかなと思うのですが、子どもたちにとってどちらがよいのか。1冊で書き込むことができる方がよいのか、授業の流れでまったく別のほうがいいのか。また、持ち帰りをどうするのか。大きさも違いますよね。いろいろな型のタイプがあるので、低学年にとってどうなのか。どのタイプが子どもにとったらいいのだろうか、どうやって授業を進めていったらいいのか、そういう点でどんなメリットがあるのか、こんなデメリットはあるのかありますでしょうか。

調査員 C 挟み込みのタイプの発行者は1者あるのですが、持ち帰りを考えると一つにまとまるので便利かなと思うのですが、やはり2冊別れてしまうということで、子どもたちの紛失は心配されるかなということは調査員の中からも話ができました。大きさについても、机の中に入れるにはどのタイプも同じ方が入りやすいのかなという話はあったのですが、各発行者とも横に広くとるか、縦に広くとるかということで、見やすい教科書というところは工夫されています。

A 委員 今回の事に関わって、となると、来年度以降道徳の教科書を使って行われる授業では他の国語とか算数とかと同じように、道徳用の別のノートを購入して授業をする感じになっていくのか、それとも、2冊あるから片方に記録していくという感じになっていくのか、普段の道徳の授業のやりかたも考えて、少し、来年度以降の授業のイメージをお伝えいただけたらと思うのですが。

調査員 C 授業としては今もワークシートを使っての授業をされているので、そのワークシートをためたものが評価にも繋がっていくのかなと思います。ワークシートをノートに貼ってためていくのか、ポートフォリオ型にしてファイルに留めていくのか、あるいは2冊に分かれているノートを使っていくのか、というところで授業の形は変わっていくのかなと思います。先ほど、報告にも入れさせていただきましたが、クラスの様子に合わせて授業をしていくといろいろな流れができてくると思うのですが、固定したやりかたで、やりやすさをとって、固定した発問になっている道徳ノートを使っていくのか、あるいは、教師側の方である程度の裁量を持ったワークシートを作ったものをためていくのかというところで変わっていくのかなと思います。

B 委員 ワークシートを使った授業ということですが、ワークシートというのは課題

別に毎回出されるシートになるんですか。まとめて全部いただくわけではなくて、授業ごとに内容に関して、配られるんですね。それプラスαなんですけど、私も2冊の分と1冊の分を拝見させていただいて、子どもだったらこの2冊があって、1つが全部記述式がぼっと与えられた時にどれだけ負担かなと思ったんです。こんなに書かなくてはいけないのかって子どもだったら思うのではないかと。先々も全部見れるので、その時に何か道德って嫌だなとなったらそれ以上は進まないような感じで。先生方もあれを評価に使うのにすごくありがたいと思うのか、その書いたことを毎回チェックしないといけない大変さにつながるのか、そのへんもどれがいいんだろうとすごく考えました。それと国語と道德と同じような感じというのはおかしいのですが、心を読みとるとか、ちょっと接点があるのではないかとということで、どちらかというとかけ離れた教材になっている方が子どもたちが飛びつく気がします。国語の教科書と似てると思わないで、「あっ！何か面白い」と思って見てくれるものがないなって思いました。先ほども調査結果の評価をいろいろとお聞きしていて、かなりいろいろ分野が分かれていますのですが、私も学研教育みらいがパッと見たときに飛びつきやすいなって思いました。すごく見やすいのと、大きいのでゆとりを持ってレイアウトされていることが、子どもにとってはすごく楽しく見れるんじゃないかなと思いました。私の気持ちと同じような評価をしていただいたのでやはりそういうところがあるんだなっていうのと、大きいA4サイズが2社あるのですけれども、その学研教育みらいのA4サイズの方がすごく使いやすいような感じにレイアウトされているので、この大きさが学校のカバンの負担にならなければ大きい方がいいなって、一冊の方がいいなっていうふうに思いました。先ほど聞きましたワークシートっていう使い方は毎回だったらその時に出されるから子どもの負担も少なく、あっ、今思ったことを書けるからすんなりいけるのかなっていう感じで。学研教育みらいばかりで申し訳ありません。その教材の最後に「考えてみよう」というところがあるので、その終わった直後にすぐにそのことについて、考えながら意見を述べて、それが良い悪いっていうのは道德には答えはないので、そこをみんなで意見を聞きながら先生がうまくまとめられるのかなって感じました。意見ばかりで申し訳ありません。

委員長 私も見させてもらったのですが、B委員がおっしゃったように記述が非常に多い別冊の分があったんですけど、子どもによってはすごく文章を長く書くことがすごく負担になるお子さんもいるので、先生方がご自分でワークシートを作られるのはたいそう労力もいるので、ある方がいいとは思いますが、文章を書き込む箇所が多すぎるようなワークシートは避けた方がいいのかなというふうに思いました。

C 委員 別冊に分かれていることにメリットもデメリットもあって、自分の中でもちょっと迷っています、正直言って。メリットとしては評価というものがあるので子どもの成長であるとか、そういうところを見取る。あと、子ども自身も自分の成長を振り返れるというので、それはいいことなんですけど、ただ、授業をする立場から言うと、この設問は逆にしたいとか、あるいはこの設問は伏せておいて子どもに考えさせたい、ある程度ワークシートが見えてしまうと子どもたちは授業の流れを読んでしまいますので、指導者が求めている答えを言ってしまわないだろうか。本当に自分で議論してというところになるんだろうかというところを非常に悩んでいます。

ですので、メリットもデメリットもあるんですけど、先ほど言われた記述量というのちょっと気になっている一つとして、発行者によっては本当に記述が多いところがありまして、本当にそれを書くことで時間も取られますので、その分議論する時間も縮小することになりますのでその辺を考えて選ばないといけないなと思っています。

E 委員 指導者の立場の方から話しさせてもらって恐縮なのですが、CD-RとかDVDと指導書側の方で付いていると思うのですが、そこにも、まだ開封していないんですけど、そこにも例えば書き込みワークシートのようなものとか載っているものとかありますか。

調査員 B 各者ワークシートは付いていますということはあるのですが、そちらの方は例えばDVDの方なんかは採用されてから各学校で購入するかとか決められると思います。たぶんワークシートとかは付いてくるとは思うのですが、そのワークシート自体もたぶん電子データなので発問を変えたりとかできると思います。先ほどお話しされたみたいに、ただ、教科書の方の発問はたぶんいじれないのでそれはおっしゃる通りだと思います。もう書かれている以上は先生側としては書かれている以上、その通りにやらないといけないということもありますし、不安な先生からすれば書いてくれていた方が授業しやすいということになるかもしれません。

副委員長 今、まさに言われたことなんですけど、先生によってというのがあろうと思うんですね。先ほどから出ているワークシートが初めからついている、調査員が先ほど言われたように固定化、あるいは評価されていた点でその日のねらいがその文章より前にはないと、そしたら子どもが考える余地がある。言い方を代えれば不親切な教科書なんですよ。でも、いろいろ子どもたちにも考えさせる余地があったりとか、先生方の教師の力量というもので、いろいろ工夫もできる教科になるだろうと。そこでお聞きしたいのは、調査員のお話の中でそれぞれの教師の力量が違うだろうし、特に初めての道徳の教科書ということから考えて、今の相反するバランスというか、そこらへんはどういうふうなお話がでたのかなと。ワークシートみたいにいろんなことが親切に載っている教科書から、あるいはそうじゃなくて考えさせる余地がいっぱい残している教科書、両極端。そのへんのバランスはご意見とかでたのかなと思って。

調査員 B もちろんその話になりまして、不安な先生からしたら1から10まで載っている教科書の方が安心なのかもしれませんが、全社、指導書・赤本は作るのは確実なのでそこに発問とか、基本的な流れは入っているの、そこまで1から10まで書いてある教科書を選ばなくてはならないとはならないよね、という話をしました。指導書があれば今までなかったの、それがある点だけでも来年度変わってくところなので初めての先生には安心なのかなという話はしました。

委員長 ワークシート以外の観点で他になにかありますでしょうか。

F 委員 学年ごとに体系的にと言うか、例えば違う学年でも同じ題材を使って、過去にこういうことをやって、次の年は成長してこういう気づきがあったとか、そういった

体系的というかこういったふうに展開している教科書ってこのなかにございますか。比較的見ていると学研教育みらいがそれに近い印象のようなことを書かれているのかなと思いました。

調査員 B 全発行者本当にそういうことを意識されているので、その方法が違うのかなという形だと思います。基本別冊と教科書が一体となっている教科書では自分の学びや気づきを残していけば自分の成長を感じることができると思いますし、別々に分かれている教科書であれば自分が書いた方をしっかり残していけばわかるようになっていきますし、それが発達段階でも各発行者取組んでいるので、どの発行者を選んでも最低限というか、意識されていると思います。

F 委員 例えば5, 6年生ぐらいになると去年やったことがかなり明確に覚えているようになりますので、そういえばこういうことがあったな。今、あの時思っていたことと、もっと違うことを考えられる、感じられるなという、まあほぼ同じ気づきというのかあると思うのですが、1年間を通じて意識されているのかなと。だいたいどこもそれは意識されているのでしょうか。

調査員 C どの発行者もだいたい1年の流れをイメージして作られていまして、その中で一つの題材について連続した方が、子どもたちの中で残ると意識されているのが、1年の中で流れの中に連続したものがありますし、1年の中でポイントポイントでちりばめられて日が経って忘れかけた頃にもう一度それについて考えてみようというふうにもっていってもらえるような流れになっていますし、だいたい流れとか系統だてたものになっております。

E 委員 調査報告書の中のナンバー3の教育出版の評価の中で、導入の部分で本時の学習の明確化が図られている。教材を読む前にどのような価値について学習するのか、何が問題になっているのかなどを把握して、問題解決的な学習ができるよう配慮されている。要は、道徳の価値を先に示している教科書と、先ほど示されていないと言っていたナンバー1の学研教育みらいですね。本文より前に学習の主題を示さないことで、児童自身から発する問題意識を第一に考えることができるように工夫されているとあるのですが、相反しているように私はすごく感じているのですが、どちらも評価をされているのですが、私の勘違いなのかそこらへん御解説いただいてもよろしいですか。

調査員 B もちろんどちらにもメリットがあるという意味で評価させていただいています。先に示した方がその一時間の授業は確かにぶれない。その価値について話し合うよという点でぶれないんですが、担任の力量によっても違いますし、ちょっとそれは言い過ぎだろうとそこまで載せなくてもいいよねと考える先生もいらっしゃるのでは、この点ではデメリットに変わっている方もいるかもしれません。学研教育みらいはないので、入れたい先生はたぶん、授業でご自分で示されるでしょうしという自由度はあります。それをどちらにせよ子どもたちの意見を本時の価値について焦点化していくために示すっていうのは手法としてはあるので、それを教科書自体に載っているのか、学研教育みらいみたいに載せないことで教師の裁量に任せているのかという違いがあります。

E 委員 国語教材でもないので、この教材、この読み物を通じてどんな価値を子どもたちに与えていくのかというのは、必ず必要だと思っていないといけないし、あるいは、教科書発行者さんが作られた価値は指導書の方に載っているよ、と先ほどおっしゃっていたのですがそれはあらかじめ子どもたちにも示していく方が必要なのかなという気はしているのですけれども。

副委員長 今、おっしゃったように一番最初に示すパターンが多いんです。それは、ずっと今日はこのお勉強なんやな、友情なら友情というお勉強すんねんなあ。ただ、その時にそれじゃなくて、別の角度から導入したいという場合に、最初からあるよりはちょっと角度を変えて子どもたちに導入させて、その後で最終的には友情という勉強を学んだということが当然理解してもらわなければならないのですけど。そういう自由度があるような教材であるという意味だと思います。授業のパターンが最初からあったらそこから見てしまう。そしたら子どもたちは今日は友情なんやって。もちろん、同じパターンでいくのが子どもの安心に繋がるかもしれませんが、ちょっと今日は導入を変えたいなと思っていてもできないという話だと思いますけどね。たしかにおっしゃるように、道徳的価値っていうのは必ず今日の内容項目はこれですっていうのは絶対ある話なのでそれは外せないところですけど、だから最終的にそのことに対する子どもの気づきがなかったら道徳ではない。そんなことは必ず入れはるのは間違いない。それをいつ入れるかの問題。

委員長 私の方から一つ。偉人、伝記ですよ。偉人の方についていろんな各発行者すごく特徴的というか、いろんな方を取りあつかっているのですけれども、過去の本当に昔の方の記録があるのですけど、現在進行形でがんばっておられる方もすごくたくさん書かれていたりとか、障がい者理解につながるような伝記もたくさんあったと思うんですね。ちょっとひとつ心配なのが、最近芸能人の人たちでもすごくみんなから尊敬されているような立場の人が、良くない行動で番組から降板みたいなことが起こってきていて、まあ道徳でそんなことはめったには起こらないと思うのですが、今のそういう教科書に載っておられる方がそういうことが万一起こらないということもないのかなという恐れも考えながら読んでおりました。それは一生懸命考えても杞憂に終わることが多いのかなと思うので、意見なんですけどね、ただ偉人や伝記で書かれているみなさんについて各発行者、何か特徴的なことがあったら教えていただきたいのですけれども。

調査員 C 詳しく、この発行者にはこういう傾向があるねというところまでは申し訳ありませんが見取れていないのですけれども、オリンピック・パラリンピックを見据えてどの発行者も取り扱いが多いなという印象です。

調査員 B 付け足しで、昔の偉人、もう亡くなっていて、もう価値が変わらない方っていうのは各発行者たくさん載せていますし、やっぱり新しい方を載せている意図というのは子どもたちにとって旬というか、この人知っているという食いつきの面で、各発行者必ず採用されているので、たぶんこれから先も変わることはないのかなとは思いますが。ただ、不祥事についてはちょっとそこまではこちらではわかりませんが。



委員長 他に何か質問はありませんか。

G 委員 今回の事にも少し関連があるのですが、従来の読み物で道徳の学習に使ってきた読み物に加えて新しい身近な話題、学校のことであったり、何か身近な読み物教材がかなり各発行者とも取り上げられているなという印象を受けたのですが、吹田の子どもたちが学習するにあたって、この教材がいいなであったり、この発行者の取り上げているものもいい、取上げ方が特にいいなと思われたところがあれば教えていただきたいのですけれども。人物だけではなく身近な読み物教材でここはいいなあって思われたものがあつたら特徴的な物を教えてください。

調査員 A すごく内容が多彩なんですけれども、今まで定番と言われている教材もきちっと残っておりますし、あるいは子どもたちの本当の身近に起こっている実生活、学校生活で、日々クラスの中で学級会とかみんなで話し合うような内容に近い本当にそれと同じような教材もありますので、多岐にわたっていると感想を持ちました。

D 委員 先ほどのお話に近いところなんですけど、身近なことをたくさん書いているかなと私が瞬間的にぱっとみて思ったのは東京書籍だったんですけれども、かと言えば昔の偉人の話がいくつも出てくる発行者があつたりしてですね、吹田市としてその教科書の内容通りにまんべんなくするつもりなのか、それとも身近なことに道徳としての教科として主眼を置いて1年の中でも体系的にしたいと思っているのか、そういうことがあるのかですね、そういうことで何か考えをもってらっしゃるのかなと思ひまして、評価に関することについてもあるのかもしれませんが、その題材数を言うと35時間の教科で収まるように各発行者考えてらっしゃるのですけれども、国際親善の部分とかもあるけれども、子どもたちに身近な部分に時間を割こうとするとか、というような考え方を持とうというような意見とかは出たりはしていないのですか。特に、この授業数、この題材数のまま、想定するに1つに1時間でされるのかなと思うのですけれども、まったく1つが1時間で終わるかどうかも先生によって違うのかなとも思うのですが。

調査員 B 直接の答えになるかはわかりませんが、気を付けないといけないのは、道徳の時間は生活指導とか、生徒指導とは違うという点でして、「こうしなさい」「こうすべきだからこうしなさい」と言ってしまったら、道徳の時間ではなくなってしまうんです。なので、各発行者、体験活動、話し合い活動をしますけれども、「こうしなさい」という書き方はしていないんです。なので、どの教材をやっても子どもたちの価値の良さについて話し合ったりとか、「その行動なんですか」という気持ちについて語り合ったりすることはあるのですが、身近な題材であっても、身近な題材ごとに「じゃあこうしなさい」という授業にはならないと思ひます。そこはどの発行者を採用してもそうはならないと思ひます。吹田全体のどのように教育していくのかについては我々は教科書を検討しただけなので話はしておりません。

B 委員 内容に関してじゃないんですけど、タイトルで「輝く未来」などの副題で道徳をさりげなく表しているところとかがありますけれども、あと表紙の問題なんですけど、表紙のデザインで道徳と出ていないとダメだとかそういうことで議論があつたの

かお聞かせ願いますか。

- 調査員 C 議論という事ではないのですが、各発行者とも並べてみると1年生から6年生までこういう成長を見取って作られているんだろうなという感想です。副題についても子どもたちに想いを載せて作られているんだろうなと、教科書発行者がそういうところまで思ってくれているんだろうなという話はしました。ただ、ちょっと残念ながら1学年1学年しか子どもたちの手元には届かないのでそういう思いというものどこかで子どもたちにも気づいてもらえたらいいよねという話をしました。
- B 委員 それに関してなんですけど、うちの子どもたちは教科書の表紙についてかなり兄弟で語り合ったりして、昔ドリルの表紙についても食いつきやすいドリルだったら率先してするとか、今回これになったんだねという話題ですごく盛り上がったりとかするのがうちの子に関してのことなんですけれども、何かこのデザインは誰が描いたものかという話まででたので、そういうところから入る子もいるんだなというところで、何か副題がついているのが表にぽっと出ていると、道徳という感じじゃなくて私的にはやわらかい感じがしたので興味を引く授業になってくれたらなという感じです。
- 委員長 私もちょうと同じようなことを感じてまして、絵がかわいいものをメモ取ってきたのですが、同じ題材、例えば「かぼちやのつる」が低学年で読み物でほとんどの発行者で出ているのですが、かぼちやの表現でも発行者ごとにみんな違って、絵がかわいいというメモしているのが東京書籍、光村図書がちょっと絵がかわいいかなと思いました。内容に関わってですが、漫画が、ちびまる子ちゃんとドラえもんが入っている発行者が何者かありましたね。光文書院がちびまる子ちゃん、ドラえもんが入っていてこれは子どもが4コマ漫画とか飛びついて読むのかなと思ったり、もう一者ちびまる子ちゃんが出ていたのが東京書籍ですかね。それに比べて芸術的なんですけど筆致がわざと幼稚なイラストの会社もあって、怖いイメージ、色使いでいうと怖いイメージを子どもがもつので、そこも見ていくことが大事なのかなと思いました。ほかに何かありますか。
- C 委員 1年生にとって小学校に入学したての時はひらがなが読めない前提です。道徳の教科書1年生のもので、そのひらがなが読めないというのを配慮して作られている教科書、特に気になったものがあれば教えてください。あまりに字が最初にドンと出てしまうと、それはちょっと1年生としては不適なのかなと思ったので質問させていただきました。
- 調査員 A 1年生はやはり言われる通り、字を習うのが1学期ということで全発行者ともに、やはり絵を中心にあるいは評価のあたりも何かマークで評価、自分の考えを書いたりというふうに工夫はされているのかなと思います。
- 委員長 道徳の中で道徳的な価値、心情に訴えるというところで、今すごく学校でいじめのない学校ということで各学校取組んでいると思うのですが、そういったことの一助となるようないじめや人権に対するアプローチですよね。やっぱり低学年のうちから積み上げていくようなことだと思うのですがそういうことで特徴的な教科

書発行者はありますか。

調査員 B 各発行者、本当に意識してされているのですが、先ほど発表で話したようにユニットとして連続して命に係わる人権に関わる事を直接的教材ということで「いじめ」という単語を出したりだとか、いじわるをするとか、いじめに直結するような題材で、学研教育みらいだったら3つ連続してやったらさらに「いじめ」という言葉は出てこないけれども、間接的アプローチと表記されているのですけれども、優しさとか思いやりとかいう点で、各学年いじめについて考えるというふうにしていますし、他のユニットでやっている発行者もありますし、ユニットという表現はしていないのですが、やっぱり直接的、間接的とは言っていないけれども、そういう教材をちゃんと各社ともに扱っているという点で全発行者配慮されているのですが、ユニットという形で強調されている発行者はいくつか限られるのかなとは思っております。

調査員 C 付け足しですが、東京書籍、光村図書、学研教育みらいは間接的アプローチ、直接的アプローチを年間通して繰り返し扱いがあります。あとは先ほど申しましたけれども連続していじめについてはどの発行者も重点をおいて扱っております。

委員長 ありがとうございます。他に質問はありませんか。

各委員 なし。

委員長 調査員の先生方も本当にいろいろと調べていただきありがとうございました。

【調査員は退席】

委員長 これで報告と質疑応答は終わりです。本日の話し合いを受けてそれぞれ次回までに資料に目を通していただいたり、今日の質問でまた教科書を見て確かめたいところ等が出てきたと思いますので、もう一度ご覧いただきまして次回よろしく願いいたします。それでは事務局からお願いします。

事務局 【事務連絡】

委員長 それでは、以上をもちまして第2回選定委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

【17:00閉会】